



魅力その1

景

Landscape

観



霧島ジオパーク公式キャラクター
キラッチ

雄大で美しく、かつ変化に富んだ景観

西日本火山帯を一望



【南九州のフロント】



火山の列

霧島の南側には、巨大なカルデラを含む多くの火山が列をなしており、これら南九州の火山フロントを一望することができます。



【霧島の火山列】

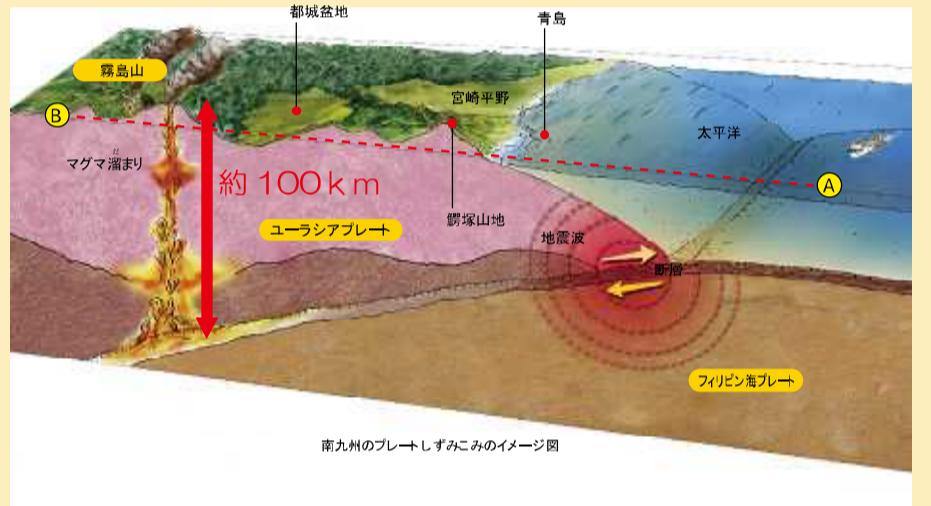


火山が並ぶ理由

日本は4つのプレートがぶつかり合うところにあります。九州の東側では、フィリピン海プレートがユーラシアプレートを押しながらしずみこんでいます。

しずみこむプレートに引きずられて、ユーラシアプレートは変形します。変形に耐えきれなくなると、岩石がこわれてズレを生じ、地震が発生します。

しずみこんだプレートから水が供給されると岩石の溶ける温度が下がり、岩石が溶けてマグマが発生します。このマグマが上昇して地表に現れることが火山の噴火です。そのマグマが発生するところが地表から深さ約100kmぐらいのところまで一定しているため、プレートの境界とおおよそ平行に火山の列ができます。この火山列のうち、もっとも東の火山を結んだ線を”火山フロント”とよびます。



南九州のプレートしずみこみのイメージ図

火山の噴出物にかかる滝



加久藤火砕流堆積物にかかる滝

湧水町からえびの市・小林市にかけて東西15km、南北5kmの大きさを持つ加久藤盆地は、約34万年前の噴火によってできました。噴火によって発生した巨大な火砕流は、加久藤火砕流と呼ばれ、南九州の広い範囲をおおいつくしました。



加久藤盆地の位置



加久藤火砕流がおよんだ範囲



加久藤カルデラの縁から見た霧島山(矢岳高原)



溶岩の堆積物にかかる滝



【七折の滝(えびの市)】

甕岳の溶岩にかかる滝



【丸尾の滝(霧島市)】

湯之谷岳の溶岩にかかる滝



【関之尾滝(都城市)】



【須木の滝(小林市)】



【桐原の滝(曽於市)】



霧島ジオパーク